



招待作品「HATOMA FILMS」(スールン・ホアス)

# 映像人類学 映像民俗学のゆくえ

映像上映会  
×  
研究フォーラム  
×  
討論会

映像作家と研究者たちのみた「沖縄」と「アジア」、「アフリカ」

日程：2008年3月21日(金)/22日(土)

場所：沖縄大学 3-101/ミニシアター

## 【3月21日】

14:00 - 19:00

■ Session 1 会場A：沖縄大学 3-301

「記憶すること・記録すること」 進行：吉松安弘

- 川瀬 慈 「Room 11, Ethiopia Hotel」エチオピア (23分)
- 分藤大翼 「Jengi」(ジェンギ)ピグミー族 (20分)
- 古川優貴 「rhythm」(12分)
- 牛島 巖 「不漁払いのハラン(供物奉納儀礼)」(23分)
- 木口由香 「東北タイの漁具トウム・ヤイの変遷」(15分)
- 須藤義人 「フェーヌシマのきた道」(43分)
- 多比良健夫「潮桶をつくる」(46分)
- 紺屋あかり「神舞の記録—400年の舞」(20分)
- 新井一寛 「同居とカメラ」(30分)
- 長島節五 「御嶽教のシャーマン」(15分)
- 崔吉城 「シャーマンを追って」(20分)
- 大石高典 「採る、捕る、獲る、ドンゴを撮る!」(25分)

15:00 - 17:30

■ Sub-Session 会場B：沖縄大学 ミニシアター

「沖縄特集」 進行：三浦麻子

スールン・ホアス「HATOMA Film's」(120分)

19:00 - 20:30

■ Discussion 会場：沖縄大学 3-301

「上映作品群の印象と課題」 司会：亙 純吉、大塚正之

※参加予約は必要ありません。直接会場にお越しください。  
入場料は無料ですが、資料代として300円をいただきます。

主催：日本映像民俗学の会 協力：沖縄大学

連絡：沖縄大会実行委員会・須藤義人(電話：090-9386-5894/メール：sudo@okinawa-u.ac.jp)

## 【3月22日】

9:00 - 12:30/13:30 - 17:00

■ Forum 1/2 会場：沖縄大学 3-301

「カメラは何を捉えてきたのかⅠ」

進行：牛島 巖、北村皆雄

「カメラは何を捉えてきたのかⅡ」

進行：康 浩郎、小林忠雄

【映像民俗学の先人たち】岡田一男 (35分)

滋澤敬三、宮本馨太郎、マンローほか

【アジア・日本と映像】(各自20分)

報告者 坂本 要(芸能)  
弘 理子(ネパールの女神)  
嶋島 直(台湾原住民)

【沖縄への眼差し】比嘉政夫 (35分)

河村只雄「沖縄本島及び周辺離島の風物」(20分)

柳宗悦 「琉球の風物」(13分)

【アフリカと映像】(各自20分)

報告者 川瀬 慈 (エチオピア吟遊詩人)  
分藤大翼(ピグミー)、  
新井一寛(スーフィー、同居とカメラ)

【沖縄・アイヌと映像】(各自20分)

報告者 新里光宏(宮古の変貌)  
須藤義人(沖縄とアイヌ)  
内田順子(アイヌ映画検証)  
崔吉城 (宮古の洗骨)

【記録の方法・利用の方法】

報告者 大森康宏(映像人類学)  
孝寿 聡(博物館学)、  
牛島 巖(シークエンス映画)  
亙 純吉(映像授業)

17:00 - 18:00

■ Forum 3 会場：沖縄大学 3-301

「映像人類学・映像民俗学のゆくえ」

進行：比嘉豊光、須藤義人

【映像実践をどのように発展させていくのか】(フロアとの討論会)

【沖縄大会趣旨】

宮本馨太郎や滋澤敬三、河村只雄や柳宗悦のようなパイオニアたちの映像記録から、現代の若手たちの映像作品までを辿ると、「映像民俗学・映像人類学」の系譜が明確に見えてくる。撮影者と対象者という、「沖縄」が生まれ続けてきた構図は、そういった映像作品群を俯瞰することで浮かび上がってこよう。それゆえに、撮られ続けてきた「沖縄」において、映像記録に関わる全国の専門家たちが、「映像民俗学・映像人類学」のゆくえを話し合うことは、学術的にも貴重な機会であると考えている。私達の会「日本映像民俗学の会」も30年の転機を迎え、原点に戻って生まれ変わり、新しく出発をする方向性を、ここ「沖縄」から模索したいと思っている。